

大学の協力を得て地域観光資源を活用した「銭湯めぐりマップ」を作成

滋賀県

ポイント

(財)滋賀県生活衛生営業指導センター（以下「県指導センター」と表記）は、地元大学の協力を得て、地域の観光資源と銭湯を「ウォーキング」という「運動」でマッチングさせた「銭湯めぐり（ウォーキング）マップ」を作成しました。観光地をウォーキングで楽しみながら、銭湯での入浴を勧めるユニークな取り組みです。

- 公衆浴場施設における健康入浴事業の型に捉われることなく、地域の観光資源とウォーキングに着目し、観光とウォーキングと銭湯をマッチさせた観光マップを作成
- マップの作成にあたっては、地元大学のゼミの協力を得ることにより産学連携を実践
- 大学との連携が功を奏してマスコミも注目

これまでの経過

「ウォーキングで湖都大津銭湯めぐりマップ」の作成は、平成19年度の健康入浴推進モデル事業（以下「モデル事業」と表記）として行われました。

きっかけとなったのは、前年に県東部の東近江市内の銭湯でウォーキングクラブと連携したモデル事業を実施した際に、銭湯経営者から「ウォーキングのコースが整備できれば」との声を受け、県指導センター専務理事の谷本義広さんが「健康入浴推進事業運営協議会」のメンバーである、県大津保健所職員に相談したところ、びわこ成蹊スポーツ大学（大津市北比良）の生涯スポーツ学科健康スポーツ学専攻で医学博士の金森雅夫教授を紹介されました。金森教授の快諾を受け、ゼミの学生12人によるマップづくりが始まったのは19年の7月下旬でした。

「17軒の銭湯の位置を調べると、12軒がうまい具合に東西南北に数軒ずつありました」と金森さん。位置的にコースを組みにくい5軒の

ぞいた12軒の銭湯を盛り込んでコースを考えることになりました。夏休みなども利用して市内を自転車や徒歩で巡り、銭湯も訪ねた学生たちは、全員が銭湯初体験だったと言います。

11月に原案ができ、学生らが実際にウォーキングを行って銭湯での入浴も体験。その後意見交換、コースの最終調整の場を持ちました。

ウォーキングマップとは

「ウォーキングで湖都大津銭湯めぐりマップ」



ウォーキングマップ作りについて熱心に話し合う金森ゼミの学生と銭湯経営者たち

が完成したのは平成20年3月。2kmから7kmの6つのコースを色分けして紹介しています【8～9ページに一部を掲載】。各コースには「JR大津駅ロング8字コース（ファミリーふれあいコース）約7km、2時間30分」や、「京阪浜大津北コース（食べ歩きコース）約3km、1時間10分」など、親しみやすい名称もつけられています。

ウォーキングの起点として銭湯のロッカーを利用する場合も考慮して、12の銭湯は写真とセールスポイント、営業日・時間、連絡先などを掲載。このほか「湖都大津の歴史にも触れてほしい」との要望を受けて名所・旧跡にはイラストや紹介文も付けました。大津宿本陣跡の紹介文には、マップの表紙がこの界隈の賑わいを描いた歌川広重の「木曾街道六十九次大津」から編集したことを伝えています。

また、マップの他の部分には桜の名所にはピンクの花のマーク、風光明媚な場所には「展望よし」の吹き出し、道標のほか、焼き芋、コロッケ、力餅、おまんじゅう、ふな寿司などの店情報など、マップを手にウォーキングをしたくなる気持ちを沸き立たせるような内容になっています。

地図以外の市内の銭湯についても名称、住所、電話番号、定休日などを表組みにして掲載しました。ウォーキング後のストレッチにもなる水中運動も紹介して、銭湯を利用した健康づくりをPRし、地域住民の健康増進に役立てるだけでなく、観光客にも手にとってもらおうと、作成した1万部はJR大津駅などにある観光施設にも置かせてもらいました。県指導センターのホームページには、PDFファイルでのダウンロードが可能であることも告知されています。

事業の特徴と効果

県指導センター専務理事の谷本さんは「ウォーキングマップの作成にあたっては金森教授と学生たちの全面的な協力があり、県指導センターも銭湯経営者も大変助かりました」と話しています。県指導センターや県公衆浴場業



びわこ成蹊スポーツ大生の協力で「銭湯めぐりマップ」6コースが完成したことを報じる朝日新聞の紙面

生活衛生同業組合理事たちは、学生とのミーティングへの出席とコースの下見をしました。が、コースの原案に注文をつけることはありませんでした。

地元の学生たちが銭湯の活性化に一役買ったという明るいニュースは、新聞各紙やテレビ、ラジオに取り上げられるなど、PR面でも思いがけない効果があったほか、報道を通して「身近な場所に銭湯があることを知った」とか「昔を思い出した」などの声も聞かれました。銭湯には、マップを手にしたお客様も訪れ、効果が現れ始めています。「湯～トピアきりしま」を経営する宮崎丹蔵さんは「マップをきっかけに、昔の銭湯のことなどお客様との会話が弾んだ」と話し、地元の人だけでなく、観光客らしい人がマップを手に歩いている姿を何度も見かけ、嬉しい思いをしているそうです。

平成20年度事業として、マップの活用法として学生たちからの声も多かったスタンプラリーを、11月、少し形を変えて実施しました。これは、市内17銭湯に銭湯名とキーワードを書いた

【本文、10ページに続く】

ウォーキングで 湖都大津

銭湯めぐりマップ

気軽に歩いてちよっと入浴

※定数の入浴料金は、半浴200円(120分) 浴料金(大人)です。
 ※営業時間午後9時～10時
 ※ウォーキング時の経過のウォーキングコースについては最新にお店にお問い合わせください。
 ※掲載内容は平成28年4月現在までのものです。

全コース図

- ① 新大阪大津北コース (約25km、1時間15分)
- ② 新大阪大津南コース (約25km、1時間20分)
- ③ JR大津駅ショートコース (約5km、45分)
- ④ JR大津駅ロング8字コース (約7km、50分程度)
- ⑤ JR石山駅北コース (約35km、1時間45分)
- ⑥ 伊勢山温泉コース (約25km、2時間)

西の庄湯

1977年に建てられた、湖都大津の中心に位置する銭湯。浴槽は、湖の風景を一望できる。また、お風呂の音を楽しむことができる。お風呂の音を楽しむことができる。

新津湯

新津湯は、湖都大津の中心に位置する銭湯。浴槽は、湖の風景を一望できる。また、お風呂の音を楽しむことができる。お風呂の音を楽しむことができる。

JR大津駅ロング8字コース

ファミリー向けのコース

これからの課題

谷本さんは「銭湯では経営者の高齢化が進んでいるところが多い」と言い、スタンプラリーの実施にも負担をかけまいとする心配りをしています。初めて銭湯を訪れた学生たちからは、「泡風呂」や「スーパージェット風呂」「寝風呂」などを珍しく思う声とともに、「トイレが不衛生だった」「番台から見られるのがいや」などの改善を望む声もありましたが、銭湯では改善が進まない現状もあります。しかし、県指導センターでは、せっかく作ったマップの活用を通して、銭湯の活性化を進めたいと考えています。金森教授はマップ作成にあたり、「初心者からウォーキングの上級者まで、色々な人たちが満足できるコースづくりと、坂道などを積極的に取り入れ、ウォーキングの効果が上がるように指示した」と話しています。ウォーキングに限らず、スポーツで汗を流した直後の入浴は、運動の効果を高めるとともに、筋肉や精神のリラックスにもなり理想的だとも言います。銭湯のように広い浴槽ならよりリラックス効果も高いとも。運動と風呂を結びつけるのは医学的にも根拠があり、「例えばサッカーチームや野球クラブなどに練習後の銭湯入浴を勧めてみてはどうか」という意見も出されました。

谷本さんは、「次回のマップの印刷時には、金森教授の話を是非盛り込みたい」と意欲を見せています。マップのコースが健康に効果のあるウォーキングコースであり、運動後の入浴とセットで実施するのが望ましいと付け加え、銭湯の活用を促そうというのです。また、JR大津駅など、観光施設に置いたマップはすぐになくなったことから、大津を訪れた人の多くが手にしていると思われます。

観光都市大津の魅力も十分に紹介したマップは、銭湯と商店、商店街などが連携して新たな観光事業を生み出す可能性も秘めています。今後の活用に期待が膨らみます。



銭湯を巡って2つのキーワードを見つけるイベントの開催を告げるポスター

ポスターを掲示し、2カ所のキーワードを書いて県指導センターに応募するという方法でした(上のポスター参照)。この方法について谷本さんは「銭湯側に負担をかけたくなかった」と話しています。賞品は血圧計(5人)と無料入浴券(5回分・10人)で、応募総数は約100人でした。

大学側での事業の効果について、金森教授は「学生たちにとって、学びを仕事に結びつけることのできる最良の教材だった」と話しています。学生たちが卒業後、実社会に出た際、与えられた仕事の中で、スポーツにかかわる部分を見つけ、これまでの経験や自己を活かす方法を知ったと考えているそうです。

3つ折りマップの裏面には「びわこ成蹊スポーツ大学金森ゼミ」の協力を受けたこと、12人の学生の名前も掲載されており、マップを手にした学生はもちろん、学生の親たちからも感謝の声が金森教授の元に届いたそうです。